



新生児医療の最前線

全国から小児科医師を受け入れ、地方の新生児科医師の育成を図るとともに、県内の新生児医療を整備・充実させるため、神奈川県立こども医療センターにおいて短期有給研修医制度がスタートします。ここでは、新生児科医師の育成を目指すこの新制度を紹介します。

神奈川県職員提案事業 「新生児医療の崩壊の阻止をめざした 短期有給研修医制度」の創設

豊島勝昭[※]
とよしま・かつあき

● はじめに

2009年度より神奈川県立こども医療センターでは短期新生児医療臨床研修医制度をスタートさせます。

この研修医制度は神奈川県職員の政策提案事業として採択された2年間限定のプロジェクトです。県内・県外を問わず、新生児科医療を志す小児科医師の育成を目指します。長期間の研修が困難な方にも参加していただけるように、時期・期間・内容に柔軟性を持たせた臨床研修プログラムとして公募します。

本稿では、この研修医制度創設の経緯を報告するとともに、実際の臨床研修プログラムを紹介します。

● 神奈川県知事の施設訪問

2008年5月27日に松沢成文神奈川県知事が当院を施設訪問されました。NICU訪問は5分間の予定でしたが、約25分間、NICU内を案

内し、意見交換を行いました(写真1)。神奈川県における県外への妊婦救急搬送は2006年は約100件、2007年は約70件と多く、NICUを必要とする児や家族を県内では収容しきれていない現状です。2008年10月に当院NICUは15床から21床に増床予定でしたが、NICU施設の拡充にはNICU医療従事者の人材育成も併行して必要であることをお話ししました。松沢知事は現場の声に紳士的に真摯に耳を傾けてくださり、一緒に今後を考えてくださろうとしていることを感じ、勇気をいただいた気持ちになりました。

● 神奈川県への提案書

知事の施設訪問に備えて約9,000字からなる「神奈川県新生児医療の現状と提案」という提案書を作成しました。神奈川県の新児医療の現状を表す諸データを、出生数がほぼ同じ大阪府と比較しながら約1ヵ月かけてまとめました。現状報告に加えて、県内のNICU病床の

※神奈川県立こども医療センター新生児科医長
(〒232-8555 神奈川県横浜市南区六ツ川2-138-4)

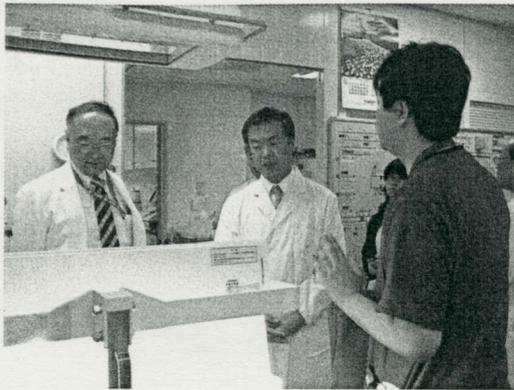


写真 1

松沢神奈川県知事（中央）の施設訪問

増床と NICU 医療従事者の増員，他県からの短期有給研修医制度の創設，女性医師のワークシェアリング制度の導入，NICU 医療従事者の職能拡大などの提案を盛り込みました。施設訪問の最後に知事に手渡しするとともに，神奈川県政策部総合政策課にも郵送で提出しました。総合政策課は理解を示してくださり，神奈川県職員提案事業への応募を勧めてくださいました。

● 神奈川県職員提案事業

「職員提案事業制度」は，神奈川県職員のやる気やアイデアを県政に生かすことを目的に 2003 年度から実施されている制度です。公募締め切り間近でしたが，何かのきっかけになるかもしれないと感じ応募しました。2 ヶ月後，県職員からの 21 の応募政策の中から，知事審査会に進む最終候補 4 政策に選出されたという

連絡を受けました。現場の医療者からの応募という行動が重要視されたことが選出理由であるとのことでした。知事審査に向けて，準備がままならない私の現状にも配慮してくださり，神奈川県庁内でサポートチームが結成されました。県庁職員の方々と意見交換・相互理解の機会となりました。私が医療現場を語り，県庁職員がそれを事業化するための方法論を検討するという適材適所の協力を目指しました。最終的には職員提案事業の予算と実現性を踏まえて「短期有給研修医制度の創設」という提案に絞りました。県として NICU 病床は増床予定ですが，県職員の削減という大方針があるため，常勤医師の増員は困難である状況に矛盾を感じていました。研修医の採用人数は固定されていて，近年は研修希望者が多くとも断らざるを得ない状況でした。本来は NICU 病床の増床にあたっては常勤医師の増員は必要条件とは感じますが，困難であるのならば，教育の必要はあるとしても，勤務を希望している研修希望医師を柔軟に雇用して NICU 医療に従事してもらえないか，という気持ちからの提案でした。

地方の NICU は人材不足で過重労働となっていること，新生児科医師を増やすために大規模 NICU 研修に派遣したいが 1 年単位の研修派遣は難しいことなどを耳にすることがありました。研修開始時期は適宜，研修期間は 3 ヶ月以上という柔軟性を持たせた短期研修医制度を創設し，全国公募することを考えました。

出生数が多く，NICU を必要とする患者さん

が多い神奈川県です。増床に対する相対的人員不足を新生児科医師を志望する地方の研修医に補ってもらい代わりに、地方では得られない短期間でのスキルアップの機会を提供するというコンセプトです。10月15日の知事審査会で事業説明を行いました。この事業説明の最後に「子どもを大切にしない国に未来はない。新生児医療を考えることは日本の未来を考えることでもある。われわれは現場で目の前に来る児を救えるように頑張るとともに、新生児医療の後継者となる人材育成に尽力をする覚悟なので、人材育成のための行政のサポートを期待している」とお願いしました。松沢知事は神奈川県のみならず地方にもメリットがある政策提案であると賛同してくださいました。そして、全面採択の2政策に選ばれました。松沢知事をはじめ、理解と支援を約束してくれた神奈川県庁の多くの方々のご助力を無駄にしないためにも、この研修医制度で当院NICU医療現場から一人でも多くの新生児科医師を育成したいと考えています(写真2)。



写真2

を図ります。原則6ヵ月間の短期の研修医制度ですが、本人の意向や知識・技術などに応じ、期間などについては柔軟に対応します。

神奈川県立こども医療センターは全国有数の小児専門病院であり、小児に関する多くの難しい症例を扱うとともに、総合周産期母子医療センターに位置付けられています。その中で新生児科は、神奈川県の総合周産期医療施設として三次救急医療の一翼を担うとともに、日本周産期・新生児医学会周産期専門医制度基幹研修施設に指定されています。

年間入院数は350名程度、そのうち超低出生体重児は30名弱です。先天異常症例が半数を超え、胎児診断例も100例を超えているため、さまざまな先天異常症例の診療を行っています。また前述のとおり、NICUは従来の15床に6床増床した21床となり、今後、超低出生体重児入院数も増加することが想定されます。

このような中、現在、当センター新生児科には経験豊富な6名の常勤医師が配置されてお

● 新生児医療のための 短期有給研修医制度

全国から新生児医療に携わる医師を受け入れることにより、神奈川県立こども医療センターにおける新生児医療の整備・充実を図り、将来の医師の確保につなげるとともに、全国的な視点においても、新生児医療に携わる医師の育成

短期有給研修医制度

目標

全国的に NICU 病床の増床が計画されている現在、それを運用できる新生児科医師の育成も急務です。この臨床支援プログラムは、全国の新生児科医師の早期育成を目指して創設しました。早産、先天異常、周産期新生児仮死などの重症患者が多い当センターにおいて、サブスペシャリティを有する新生児科医師とともに診療を経験することで、実践的な知識と技術を習得することを目標としています。

研修内容

A. NICU 診療能力向上を目指した研修

1. 極低出生体重児、超低出生体重児の診療
2. 周産期仮死・新生児仮死児の診療
3. 先天性心疾患、先天性外科疾患をはじめとした先天疾患の診療
4. ドクターカーによる往診、新生児搬送診療

胎児診断症例が多く、胎児診断には新生児科医師も参加しています。研修医には胎児診断の段階から担当を決め、胎児期から担当医として児にかかわる診療を経験していただく予定です。また、研修医の増員に基づき、可能であれば、現在より積極的に往診や新生児搬送を行い研修の一環とする予定です。

B. サブスペシャリティ養成研修

母乳栄養、胎盤病理、先天性心疾患の胎児診断、先天性心疾患の初期診断と初期診療、stress-velocity 関係を含めた早産児の循環管理、動脈管開存症の基礎と臨床、呼吸機能検査や気道ファイバーなどを生かした呼吸管理法、気管切開・在宅酸素療法・在宅人工呼吸管理などの外来診療、脳波・画像評価などを含めた脳神経疾患の医学と医療などのノウハウを指導することが可能です。

C. 院内カンファレンスへの参加

新生児科医師の参加が義務付けられている定期的な院内カンファレンスです。これに参加することで、胎児診断、周産期管理に続く新生児管理の考え方を学ぶことができます。

- ・新生児科回診（月～金）：毎朝、入院患者全員の診療を全員で話し合います。
- ・産科・新生児科カンファレンス（毎週月曜日）

参加者：産科医師、新生児科医師、母性内科医師、母性病棟スタッフ、NICU 看護師、相談室スタッフ（ソーシャルワーカー、保健師など）

内容：近く分娩を迎える予定で、NICU への入室が予想される胎児の母体・胎児の状況の連絡

- ・PNC (Prenatal Conference)（毎週木曜日）

参加者：産科医師、新生児科医師、母性内科医師、遺伝科医師、母性病棟スタッフ、NICU 医師、NICU 看護師、関連科医師

内容：胎児異常を指摘されている例に関する診療方針および患者・家族への情報提供の内容に関する検討会。新生児の治療にかかわることになる関連科の医師の参加も要請して行っています。先天性疾患の周産期医療・新生児医療の治療戦略を学ぶことができます。

- ・総合診療科・新生児科カンファレンス（月に1回）：長期入院児や退院後に小児科受診が予想される児について、小児科との連携を目的に開催しています。
- ・継続カンファレンス（月に1回）：全 NICU 退院児の退院後の病状、成長、療育などの状況を新生児科医師、看護師、ソーシャルワーカー、保健師、リハビリ科、理学療法士、作業療法士、臨床心理士などで包括的に情報共有し、診療方針を話し合います。NICU 退院後の外来フォローを学ぶことができます。

- ・研修医カンファレンス（創設予定）：新規制度により全国から常時5～8名の研修医が集う予定です。研修医中心の勉強会や情報交換会を新規に開始する予定です。

D. 院外カンファレンス

- ・神奈川県新生児連絡会（4回/年）
- ・PWG（Perinatal Working Group）カンファレンス（3回/年）
- ・成育医療・神奈川周産期合同カンファレンス（2回/年）
- ・地域協力病院とのカンファレンス（3～5回/年）

⇒研修希望者の経験・能力・期間・希望に合わせて、新生児科スタッフが柔軟に研修内容を設定します。

研修内容の評価、調整

新生児科スタッフらが研修内容を評価し、適宜調整します。

募集要件

神奈川県内外を問わず、新生児医療の経験が3ヵ月以上ある小児科医師・産科医師

募集人員

若干名

選考日および選考方法・応募方法

1. 選考日：随時相談の上、選考
2. 選考方法：面接
3. 応募方法：以下の書類を添えて提出
 - ①履歴書、②卒業証書の写し、または卒業証明書、③医師免許証の写し、④健康診断書（ただし胸部レントゲンについて医師所見の記載があるもの）

処遇など

1. 身分：神奈川県非常勤職員、原則週30時間勤務。本人の意向を踏まえ柔軟に対応します。
2. 期間：原則3～6ヵ月。本人の意向や知識、技能などに応じて柔軟に対応します。
3. 報酬（月額：2008年度実績）

卒後経験年数	2～3年未満	285,300円
	3～4年未満	297,600円
	4～5年未満	310,800円
	5～6年未満	323,800円
	6年以上	335,800円

この他、宿日直手当が1回当たり11,700円支給されます。

問い合わせ先

神奈川県立子ども医療センター新生児科（豊島）または総務課
電話 045-711-2351（代表）



写真3

り、母乳栄養、胎盤病理、循環器、神経、呼吸、在宅医療など各自が専門領域を持ちながら、豊富な経験・知識・技術を有しています。このため、新生児医療に携わる小児科医師の皆様にとっては、短期間の研修であっても、多くの症例および診療を通して高い知識と豊富な経験を身につけることが可能です。

全国から新生児科医師を目指す熱意ある先生方のご応募をお待ちしております。

● おわりに

NICUが全国的に増床予定の今、新生児科医師の育成はより一層大切になります。NICUを必要とする患者さんが多い神奈川県、経験豊かな新生児科医師がそろっている当院に、新生児科医師を目指す若者が集まれば、自然とよい教育の場となると信じています(写真3)。今回のプロジェクトは医師主導で政策提案・実施された試みです。研修の様子は適宜、新聞・テレビなどで報道される予定です。私は是が非でもこの研修医制度を成功させて、各県の行政や大学医局が新生児科医師の育成に理解と支援を呼び込むような起爆剤になればと願っています。